

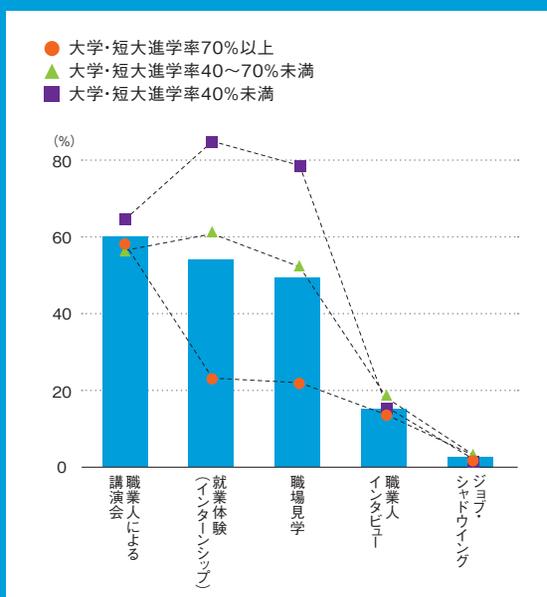
# 進路指導実践事例

## 職業観育成のための 体験的学習

厳しい雇用状況下において、職業観・勤労観を育成する指導はなくてはならないものとなっています。  
なかでもインターンシップを中心とした体験的学習は、生徒の心に揺さぶりをかけるのに効果的。  
興味関心の先にいる職業人との触れ合いが、進路実現へのモチベーションとなっている例をご紹介します。

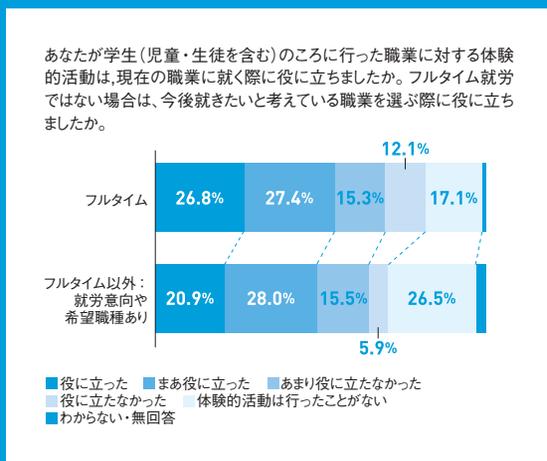
取材・文／永井ミカ

図1 進路指導で実施している取り組み事項



※ 小社「2010年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より(調査時期: 2010年10月 調査対象: 全国の全日制高校の進路指導主事)

図2 職業に対する体験的活動の効果



※内閣府による「第8回 世界青年意識調査」より(調査時期: 2007年11~12月 調査対象: 無作為抽出した18~24歳の男女)

進学校でも取り組みが始まり  
生徒の多くが参加に満足

まずは図1をご覧ください。これは、2010年の小社調査より職業観育成に関する体験的学習の実施率を取り出したもの。実施率が高い三大学習は講演会、インターンシップ、職場見学だ。この数字は06年の調査から大きくは変わっていないが、その内容は変化してきている。例えば、これらの学習は中学でも実施率が高いため、いかに内容に差をつけ高校生らしいレベルの学習にするかという点で工夫する高校が増えている。なかでも先生方が苦心されているのが、生徒たちが本当に興味のある職場や人をセッティングする

ということ。「ただ体験するのではなく、進路をじっくり考えるよき機会にしてほしい」という思いがうかがえる。

なお、これらの取り組みは進学校になると実施率が下がり、大学・短大進学率70%以上の高校に限ると、インターンシップは23%、職場見学は22%の実施率。卒業生との懇談会や高大連携による出張授業などは60~70%以上と高率なのに比べて、職業観育成のための取り組みには消極的な状況が見える。

その一方で、この傾向に逆らうかのよう  
にインターンシップを推進する進学校も出てきた。静岡県立韮山高校では1年生285人中115人が希望してインターンシップに参加。事後アンケートでは参加し

てよかったと「強く思った」生徒が68%、「思った」生徒が32%で全員が意義を感じている結果だった。キャリア教育に力を入れる千葉県立東葛飾高校でも希望者によるインターンシップを実施。マスコミ、病院、弁護士事務所など、生徒たちが進路として希望する現場で体験できることにこだわっており、中学生向け説明会でも参加者たちがその魅力をアピール。参加希望者は年々増えている。

図2は内閣府が「職業に対する体験的活動」の効果を調査したもの。フルタイム就労者のほうが、フルタイム以外の就労者より体験的活動を経験しており、職業に就く際に役に立っていることがわかる結果となっている。

# 3年間を通じたキャリア教育のなかに 効果的に位置づけた2学年のインターンシップ

— 東京・都立 本所高校 —



教諭  
深井信司先生

## School Data

普通科 / 1931年創立  
生徒数 / 757人(男子395人、女子362人)  
進路状況(2010年度実績) / 大学52.3%・短大5.5%・  
専門学校等24.3%・就職6.0%・その他11.9%  
東京都墨田区向島3-37-25  
TEL 03-3622-0344  
URL <http://www.honjo-h.metro.tokyo.jp/>

## インターンシップの実習報告書の項目 (ワークシートより)

ダウンロード可

実習事業所名	
実習日時	7月 日( ) : ~ : 7月 日( ) : ~ :
実習場所の状況	
屋内(詳しい状況)	)
屋外(詳しい状況)	)
実習時の自分の状態	
服装( )	)
体調( )	)
実習の種類(○をつける)	
事務作業( ) 接客( ) 単純作業( ) 受付業務( )	
掃除・片付け( ) 書類整理( ) 雑務( ) 見学( )	
補助(仕事の)( ) その他の仕事(具体的には)	)
実習を終えて(○をつける)	
集中度 (とても集中した まあまあ集中した あまり集中しなかった 全く集中しなかった)	
緊張度 (とても緊張していた まあまあ緊張していた あまり緊張しなかった 全く緊張しなかった)	
充実度 (とても充実していた まあまあ充実していた あまり充実しなかった 全く充実しなかった)	
興味関心 (とても興味を持った まあまあ興味があった あまり興味なかった 全く興味なかった)	
疲労度 (とても疲れた まあまあ疲れた あまり疲れなかった 全く疲れなかった)	
役立ち度 (とても役立った まあまあ役立った あまり役に立たなかった 全く役に立たなかった)	

● 今回のインターンシップ実習を通して、こういう点に気をつければもっといいものになったと思える点を書き出してみましょう。

● インターンシップ実習記録をもとに、事業所の方にお礼状を書き、報告集をつくるための資料づくりがあります。インターンシップ実習を将来の進路に役立ててください。

- ・ 実習で学んだこと～「職場での言葉遣いについて」
- ・ 実習で学んだこと～「職場でのあいさつ・服装などのみだしなみについて」
- ・ 実習で学んだこと～「働く人の、時間の使い方について」
- ・ 実習で学んだこと～「商品や、職務上扱っているもの、道具についての知識について」
- ・ 実習で学んだこと～「お客様や子供など、外部の方への対応について」
- ・ 実習で学んだこと～「社会人としての自覚について」
- ・ 実習先で、「すごいな」「さすがだな」と感心したこと
- ・ 実習で、「楽しい」「おもしろい」「興味深い」と感じたこと
- ・ 実習前に予想していたことと、実際に行き違っていたこと
- ・ 反省(「もう少しこうすれば良かった…」「次にこんな機会があったら…」など)
- ・ 現在の自分、将来の自分にとって有益だったと思うこと
- ・ そこで働いている人々の姿や態度を見て、どう感じ、どう思ったか(どんな時に誇らしい顔や楽しい顔をしていたか、どんなときに働くことの厳しさを感じたかなど)
- ・ 実習をした事業所は(又はその業種全体は)、社会の中でどのような役割を担っているのか
- ・ 実習をした事業所は(又はその業種全体は)、どのような問題・課題を抱えているのか
- ・ 自分のこれからの生き方に活かしたい、具体的なこと
- ・ 自分は今、日々をどのように過ごすことが必要か
- ・ 「人はなぜ働くのか」または「働くことの意味とは」(自分の考え、お金のため、生活のため、以外のこと)
- ・ 来年実習に行く後輩への助言

貴重な体験で感じたことを  
残らず記録する

2003年度より、総合的な学習の時間を利用した本格的なキャリア教育「Self-Fulfillment Program」(Selfプログラム)を取り入れている東京都立本所高校。1学年は「自己理解」、2学年は「自己啓発」、3学年は「自己実現」をテーマに、3年間を通して実施される。「少子高齢化、雇用不安などの問題が山積するなかで、キャリア教育の重要性はますます高まっていると思います」と、昨年度までSFF部主任を務めた深井信司先生。SFF部は独立した分掌としてプログラムの運営を行っており、地域の人や保護者に理解を得るための広報活動も積極的だ。

さて、勤労観の育成は同プログラムのねらいのなかでも重要な位置づけをされており、1学年の講演会や職業インタビュー、職業調べ、2学年のインターンシップなど取り組みは充実。

なかでも軸となるインターンシップは、2年生全員が7月に2日間かけて行うもので、昨年度は86事業所の協力を得た。講師を招いてのマナー講座から始まり、事前学習、実習、事後学習という流れだが、かなり細かい部分までワークシートでフォローされているのが特徴。実習後の報告書も左のように質問項目がぎっしりであり、貴重な体験の中で感じたこと、学んだことを、しっかりと記憶にとどまらせるための工夫が詰まっている。最終的には内容をコンパクトにまとめ、仕事内容や感想、将来に生かしたいことなどを、発表会で、それぞれが2分程度の持ち時間で述べる。

卒業生からの意見も聞き  
プログラムの改善につなげる

同校では毎年キャリア教育を振り返る協議会を開催。卒業生や在校生も数多く参加する。「インターンシップで学んだことは今でも役立っています」と卒業生。「中学校のインターンシップとは重みが違い、事前事後学習が徹底されていてやりがいがあったし、仕事の大変さも理解できたと思います」。在校生からは「入学前からインターンシップを楽しみにしていた」というコメントもあった。

一方、「生徒に主体性をもたせるという点ではまだ課題が多い」と深井先生。それぞれの取り組みの意義を生徒によく伝え、より積極的に参加できるようにプログラムを充実させていきたい考えだ。

# 進路を考えるきっかけにする 1年次のインターンシップ

— 島根・県立 三刀屋高校 —



進路指導部 キャリア教育担当  
金山良子先生

## School Data

総合科／1924年創立  
生徒数／547人(男子256人、女子291人)  
進路状況(2010年度実績)／大学41.3%・短大12.7%・  
専門学校等33.9%・就職10.1%  
島根県雲南市三刀屋町三刀屋912-2  
TEL 0854-45-2721  
URL <http://www.shimanet.ed.jp/mitoya/>

## 生徒自身がアポを取り 全員がパワーポイントで発表

島根県立三刀屋高校は1924年創立の歴史ある高校。2004年に普通科から総合学科に改編され、生徒たちは希望進路に応じて人文科学、人文情報総合人間、理数科学、理数情報の5系列から選択して学ぶ。

同校の職業観育成のための学習は、主に1年次生全員が履修する「産業社会と人間」にまとめられている。入学後に自己理解、学問、進路などについて学び、9月からインターンシップの事前学習が始まる。協力してもらええる事業所とは先生方がゴールデンウィークごろから交渉を始め、夏休みまでに詳細を決めるが、最終的にアポインメントをとるのは生徒の役目だ。このときに生徒は打ち合せの日時や担当者の名前、持ち物などを先方と確認し合う。

事前学習のなかには「アポ取り練習」の時間も設けられており、生徒たちは電話をかける前に自主的に何度も何度も練習するそうだ。インターンシップの本番は10月の2日間または3日間。休憩時間などには可能であればインタビュもするように指導している。

「進路希望が定まっている生徒には、働くことや職業についてさらに思いを深めてほしいと思っています。体験してみて社会で働くことの厳しさをあらためて感じることも大切です。1年次という早い時期に

とにかく一度は将来について真剣に考えてほしい。インターンシップがそのきっかけになれば」と、進路指導部の金山良子先生は言う。

インターンシップで体験したこと、気づいたこと、学んだことなどは全員がそれぞれパワーポイントでまとめて発表する。パワーポイントのスキルを指導するのは担任の先生だが、中学生で経験している生徒も多く生徒たちはあつという間にマスターしてしまつたため、指導にそれほど苦労はないという。

まとめ方は、作品例を見せ、全体を6枚程度のシートにまとめること、1枚目にタイトルを入れることなどルールを教える。完成したらまずクラス内で発表し、代表を選んで学年発表へ。会場には保護者や事業所の担当者も招待する。

## 調べる、まとめる、書く

## という繰り返しで自己を見つめる

こういった体験を通して、職業観の育成だけではなく、「事前に調べたり、話を聞いてメモをとったり、文章を書いたりする習慣が徐々に身につけてきます」と金山先生。生徒たちには、何かとすぐに教員を頼るのではなく、まずは自分で調べ、わからない点のみ教員に聞く、という主体性が育ててきた。インターンシップの後、その経験も踏まえて10年後の自分を見据えたライフプランを作成し、次に2年次になると研修旅行でまたレポートを作成する。そして3年次の課題研究へつながる。こうして繰り返し、積み重ねて学んでいくことで、自己を見つめ将来を模索し、進路実現の道へと向かっていくのである。

## インターンシップのまとめ 発表会用パワーポイントシート

<p><b>平成苑</b></p>	<p>◎平成苑とは...</p> <p>『介護老人保健施設』 家族だけで介護をするのは大変なのでその手助けをする場所。 入所者の方の他に通所しておられる方もおられる。 リハビリ、音楽療法などを通して、身体的機能、精神的機能を回復させ、通常の生活に戻れるようにする。</p>
<p>◎仕事内容</p> <p>&lt;1日目&gt; ・通所の迎え ・お茶の手配 ・食事の手配 ・通所の見送り</p> <p>&lt;2日目&gt; ・お茶の手配 ・おしぼり作り ・食事の手配 ・通所の見送り ・コミュニケーション</p>	<p>◎感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の大変さ、難しさ</li> <li>・やりがい</li> <li>・パワー</li> <li>・職員の方の心配り</li> <li>・介護施設の重要性</li> </ul>
<p>◎インタビューをして</p> <p>さまざまな仕事内容 ・高齢者の介護 ・介護施設の見学 ・面接 ・コミュニケーション</p> <p>この仕事に就いたきっかけ 人の役にたつ仕事だと思った。 自分の知らない世界が身近になつたからこの仕事を選んだ。 ・就職した事 手助けして喜んでくれること。 ・自分が学ぶ事でみんなを助けること。 ・先輩の方の姿、責任感、仕事への情熱、健康な体、笑顔、コミュニケーション能力</p> <p>将来へ ・元気、笑顔 ・つながり ・コミュニケーション能力</p>	<p>◎将来へ</p>

# 職業人講話とインターンシップで 志望する職業への理解を深める

— 青森・県立 大間高校 —



進路指導主事  
一戸啓二先生

## School Data

総合科／1974年創立  
生徒数／198人(男子113人、女子85人)  
進路状況(2010年度実績)／大学19.4%・短大6.0%・  
専門学校等26.9%・就職41.8%・その他5.9%  
青森県下北郡大間町大字大間字大間平20-43  
TEL 0175-37-2109  
URL <http://www.shimokita.asn.ed.jp/~ohma/>

中学校での体験から進化させた  
希望する職種の内ターンシップ

青森県立大間高校は職業観育成をはじめとする啓発的取り組みを数多く行っている。なかでも重要な行事である職業人講話は毎年2月に1・2年生対象に実施、インターンシップは9月に2年生全員を対象に実施。つまり、1年生で1回目の職業人講話を聞き、2年生の2月に2度目の講話という流れになる。こうしたなかで生徒は自己理解を深め、職業や適性について考えていく。

インターンシップは2年生全員が参加して3日間実施。受け入れ先を徐々に増やし、本州最北端の町にありながら、昨年度は生徒数60人に対し25もの事業所の協力をとりつけた。生徒に希望する職種の

## 職業人講話における「生徒から講師への質問項目」

### 飲食宿泊関係者への質問

- ① どのような高校生活でしたか。
- ② いつ頃から現在の職業に就こうと決意したのですか。
- ③ 自分がこの職業に向いていると判断したのはどんなことからでしたか。
- ④ この職業に就くために特にどんなことに取り組んでこられましたか。記憶に残っていること、エピソードなどをお願いします。
- ⑤ 高校生のうちにやっておいたほうが良いこととは。学習時間はどの位必要ですか。
- ⑥ 学歴は仕事に関係することがありますか。高卒でも大丈夫ですか。免許や資格で役立つものはありますか。
- ⑦ 仕事をこなす際にどのような能力が必要ですか。仕事をする上で大切なことは何ですか。仕事をする上で常に心がけていることはどんなことですか。
- ⑧ 成功する人と失敗する人の違いは何でしょうか。辞めていく人はいますか。その理由は何ですか。
- ⑨ 働いていて楽しかったこと、嫌だったことはどんなことですか。
- ⑩ ご自分の仕事からどのようなことを学びますか。
- ⑪ 採用の際に重視することはどこですか。また具体的な基準は何ですか。
- ⑫ 接客で一番大事なことは何ですか。
- ⑬ トラブルがあった場合どのように対応しますか。
- ⑭ 不景気の影響はありますか。
- ⑮ この1年特に努力したことは何ですか。昨年と比べこの1年で変化したことは何ですか。

### 高校教員への質問

- ① どのような高校生活でしたか。
- ② いつ頃教師になろうと決意したのですか。
- ③ 自分がこの職業に向いていると判断したのはどんなことからでしたか。
- ④ 教員採用試験に合格するために特にどんなことに取り組んでこられましたか。記憶に残っていること、エピソードなどをお願いします。
- ⑤ 大学は必ず出ておく必要がありますか。出身大学によって何か影響はありますか。あるとすればそれはどんなことですか。免許や資格で役立つものはありますか。
- ⑥ 仕事をこなす際にどのような能力が必要ですか。仕事をする上で大切なことは何ですか。仕事をする上で常に心がけていることはどんなことですか。
- ⑦ 成功する人と失敗する人の違いはなにか。
- ⑧ 高校生のうちにやっておいたほうが良いこととは。学習時間はどの位必要か。
- ⑨ 働いていて楽しいこと、嫌なことは何ですか。
- ⑩ ご自分の仕事から学ばれたことはどんなことでしょうか。教師冥利に尽きるような時だったでしょうか。
- ⑪ 辞めていく人はいますか。その理由は何ですか。
- ⑫ 先生の記憶に一番残っている生徒というのはどんな生徒だったでしょうか。
- ⑬ 授業の準備はどれくらい大変ですか。勤務する学校によってそれはかなり違いますか。
- ⑭ 授業とそれ以外の仕事の比率はどれくらいですか。
- ⑮ 家庭はかなり犠牲になりますか。なるとしても教員になることを勧めたいですか。
- ⑯ 振り返ってみて先生になって良かったでしょうか。それと給料はやはりいいのでしょうか。
- ⑰ 教師を目指す生徒に何を一番訴えたいかお聞きしたい。

アンケートをとり、学校、病院、サービス業などを開拓。地元商店などで体験する中学校の内ターンシップとの差別化を図った。「合っているのかわからないのか、適性をよく考えてほしい。体験するだけではなく、そこから何を学び次にどう踏み出すかが大切。体験してとまどう生徒もいるので、まだまだ課題は多いです」と、進路指導主事の二戸啓二先生。県が派遣する就職活動支援員の一人を事業所との折衝にあたる専任とすることで教員の負担を軽減するなど、運営面も工夫している。

## 生徒の意見に耳を傾け 集中できる取り組みにする

職業人講話は、商工会議所やハローワークなどに任せていた人選を、学校が積極的

に人材を探すという方法に変えた。インターンシップと同様、生徒が興味をもって聞きたいという職業人を選ぶことにしたのである。可能ならば年齢的にも若い人、生徒にとってリアリティや親近感を感じられる人を探す。そして、事前学習で生徒にどんなことを聞きたいかを考えさせ、講師に前もって質問項目(左図)を渡し、なるべく質問に答える形で話をしてもらうのだ。

「進路を深く考えるいい機会なのに、興味ももてず集中できずに終わってしまつてはもつたない。失敗のない講話にするためには、生徒の聞きたいこと、知りたいことに耳を傾けることが大切です」と二戸先生。「これからは社会人基礎力なども意識しながら、キャリア教育の中身をより一層充実させていきたい」と、改革を続けていく考えだ。